

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	調布市西つつじヶ丘3丁目30-1 ハイツ鹿嶋1階
園名	ピノキオ幼児舎つつじヶ丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然と色

<テーマの設定理由>

子ども達が身近な生き物や自然物に関心を示し、色にも興味を持つ姿が多く見られた。そこで、自然物を通して色を取り出す体験や様々な色と出会う活動を行う事で、子どもたちの探求心をさらに深めていきたいと考え、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

戸外散歩や公園活動の際に見つけた自然物を園に持ち帰り、観察や色を取り出す実験などを実施した。自然に触れる体験と色の活動を関連付けながら進めた。

5～7月 自然物から色を出す、色を付ける活動

自然物を用いた制作活動

9～11月 身近な素材や食べ物から色を取り出す活動

12月 様々なきのこの種類を観察し、共同制作できのこスタンプをする活動

1月 おせちの由来を知り、おせち制作をする活動

2月 青森ねぶた祭に興味を持ち、ミニねぶた制作をする活動

3月 オイルパステルを使用したアート活動

日本地図を元に、各地の特産物や伝統行事を調べる活動

ミニねぶたにライトを灯し、ねぶた祭を行う活動

トイカメラを用いて、ミニねぶたの撮影を行い、記録や振り返りを行う活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

自然物・・・木の枝、花、草木、どんぐり、松ぼっくり

素材・・・テープ、カラーセロハン、画用紙、折り紙、花紙、クレープ紙、模造紙等

食材・・・バナナ、ブルーベリー、トマト、ほうれん草、人参

マッシュルーム、エリンギ、なめこ、松茸

活動で使用する自然物や素材は十分な量を用意しておき、子どもたちが自由に制作や実験に取り組める環境を整えた。主体的に試したり工夫したりできるように、選択の幅を広げる事を意識した。

4. 探究活動の意義

<活動の内容>

- 子ども達は戸外で自然物や食べ物に触れたり、五感を使って観察したりしながら、色や素材の違いに気付く活動を行った。自然物や食べ物から色を取り出したり、色を付けたりする活動では、感触や匂い、色の変化に興味を示し、さらに自然物を用いた制作活動へ発展させる事で、素材や色の組み合わせの面白さにも目を向ける事ができた。このように、観察と制作を通して自然物への感心や素材、色への興味を深める活動に展開した。
- 11月頃に3～5歳児対象で椎茸栽培をした。毎日4、5歳児の当番活動で、霧吹きで水やりを行った。椎茸が育つ過程や栽培しておやつ時間に塩焼きにして食べた事をきっかけにきのこに興味を持つ姿が見られ、スーパーへきのこを買いに行った。観察する中できのこの種類別の違いに気付いたり共同制作のきのこスタンプを行い、模造紙に付くきのこの断面図からも違いを感じたりして、本テーマである色への活動にも繋がった。
- 12月頃に年末年始に向けて日本の伝統文化を知ってほしいという保育者の思いから、子ども達におせちの話しをするとおせちを知らない児や、食べた事のない児が数名いた。それらがきっかけでおせちの由来を伝えたり、絵本を読んだりするとおせちの文化に興味を持つ姿が見られた。年末年始後に外部講師に来園していただき、おせち料理にある食材の願い事をクイズに参加しながら学んだり、制作を行ったりした。おせち料理の写真をみたり、休み中の事を振り返ったりしながら自分なりにおせちの制作に取り組んでいた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

●自然物や食べ物から色を出す活動

「この花（ピンクの花を触りながら）を絞ったらピンク色が出てくるかな？」や「バナナは時間が経つと白から茶色になったね」など、色の変化に気付き、試したり確かめたりする姿が見られた。

●自然物を用いた制作

松ぼっくりを使用し妖怪や信号機を作る姿が見られた。また、木の棒にカラーポリ袋を付けて作った【魔法のステッキ】をきっかけに、洋服作りへ発想が広がるなど、子ども同士で刺激を受けながら活動が発展していった。子ども達の豊かな発想力や想像力が存分に発揮される場面が多く見られた。

●共同制作 きのこスタンプ

スーパーへきのこを買いに行く事にも意欲的に参加していた。種類別のきのこに触れて感触や匂いなど気付き、「くさい」や「なしの匂いがする」など感じたことを友だちや保育者と話をする姿が見られた。きのこスタンプでは、三原色の絵の具を用意し、模造紙にスタンプする中できのこの断面図の違いにも気付いていた。

●おせちの制作

おせちの写真をみたり、休み中におせちを食べた児は振り返ったりしながら自分なりのおせちを制作していた。海老や数の子などお節の定番料理だけでなく、うさぎの顔が書かれた食べ物や海苔巻きなど自分の好きな料理を制作する姿も見られた。

●ミニねぶた作り

日本地図を保育室に掲示し、毎日一県クイズで〇〇県の有名な建物や食べ物を知る中で、青森ねぶた祭に興味を持つ姿が見られた。青森ねぶたの実際に作っている様子を動画で視聴し、制作の導入を行った。墨汁を使う事は初めてだったので、本番書きする前に練習をすると半紙に墨汁で書く事と画用紙に絵の具で描く事などの違いに驚いていた。完成後はミニねぶたを点灯させ、保育室でミニねぶた祭を実施。ミニねぶたの輝きは光り方に驚いたり、ミニねぶたを囲んで踊ったりして楽しむ姿が見られた。またトイカメラを使用し、ミニねぶたの撮影を行った。写真で記録をする事で自分の作品により愛着が湧いたり、取った写真を他児の作品と見比べる事で、作品の違いを感じたり他児の作品の良い点にも気づく機会となった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然物や食べ物を用いた活動を通して、子ども達の「自然」と「色」への興味がさらに深まった。季節によって見つかる自然物が異なる事にも気付き、園に戻ってから図鑑で調べる等、自ら探求しようとする姿も見られた。

また、食べ物から色を取り出す活動では、スーパーに食材を買いに行く事にも意欲的に参加し、「どんな食材からどんな色が出るか」を子ども同士で話し合う姿が印象的であった。

今後も戸外活動を通して、季節ごとの自然に触れる機会を大切にしながら、天気・生き物・食べ物など、様々な事象への興味関心を広げ、主体的に探究しようとする気持ちが育まれる活動を継続していきたい。